

金融市場NOW

6月末の銀行貸出金残高伸び率過去最高

日銀の資金繰り支援策の開始等が影響か

- ▶ 2020年6月末の全国の銀行の貸出金残高の伸び率は前年同月末比6.8%増と、過去最高を更新。日銀による「新たな資金供給手段」の開始等が要因か。
- ▶ 日銀短観（2020年6月調査）での企業の資金繰り判断は大きく悪化。日銀の支援策や経済活動の再開等を背景に、企業の資金繰り判断が改善することが期待される。

(1) 全国の銀行の貸出金伸び率過去最高

- 2020年6月末の全国の銀行の貸出金残高は535兆4,076億円で、前年同月末比33兆9,388億円、6.8%増えました。伸び率は同6.4%増だった5月に続き、2カ月連続で過去最高を更新しました（図表1）。都市銀行の伸び率は同9.4%増で、地方銀行の同5.3%増を上回りました（図表2）。

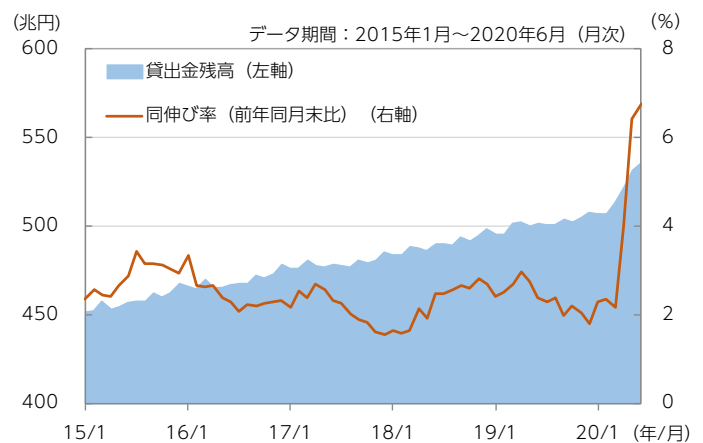
(2) 貸出金急増の背景

- 5月、6月の貸出金急増の背景には、新型コロナウイルス対策として、以下のような資金繰り支援策が開始されたことがあると思われます。
 - ① 第一次補正予算に盛り込まれた民間金融機関による実質無利子・無担保の特別貸付制度が5月に開始されたことや、第2次補正予算成立を受け、6月に融資上限額の引き上げ等の拡充が図られたこと
 - ② 日銀が5月の臨時会合で決定した約30兆円規模の「新たな資金供給手段」(注)が6月から開始されたこと (注) 民間金融機関による無利子・無担保や信用保証の付いた融資等を対象に、期間1年以内、金利ゼロ%で供給し、更に金融機関が日銀に預け入れる当座預金に0.1%の金利を付与する制度。尚、6月の定例会合では、他の2つのスキームとの合計で約75兆円とされていた「新型コロナ対応資金繰り支援特別プログラム（特別プログラム）」の規模を110兆円超に拡大することが決定された

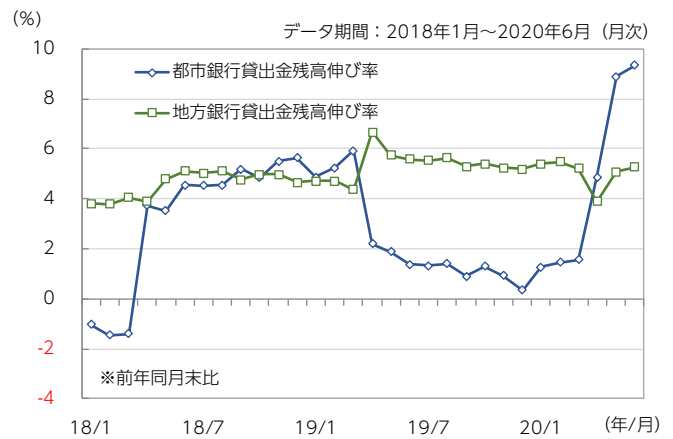
(3) 企業の資金繰り判断

- 新型コロナウイルスの感染拡大等の影響で、企業の資金繰り判断が悪化しています。7月1日に発表された日銀短観（2020年6月調査）によると、資金繰り判断D I（「楽である」－「苦しい」）（全産業）は、全規模（大企業・中堅企業・中小企業）で大きく悪化し、特に中小企業は-1と、「苦しい」が「楽である」を上回る状態となっています（図表3）。日銀の支援策や経済活動の再開等を背景に、企業の資金繰り判断が改善することが期待されます。

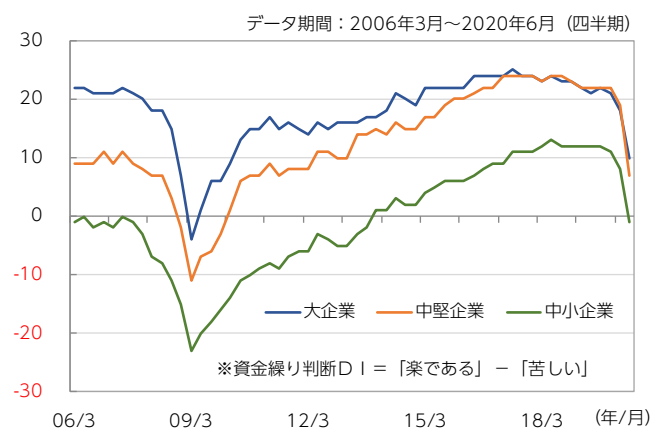
図表1：全国の銀行の貸出金残高と伸び率



図表2：都市銀行と地方銀行の貸出金残高伸び率



図表3：資金繰り判断D I（全産業）



出所) 図表1～3はニッセイ基礎研究所及び日銀データをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>